



高山西ロータリークラブ

例会報告

第 2630 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1966 年 1 月 15 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988
- 会長 折茂 謙一
- 幹事 米澤 久二
- 会報委員長 脇本 敏雄



「ラッセン風ジンバイザメ」 蜘蛛 康介

<会長の時間>

院長不在のまま私も外科医の日常の仕事には変化がありませんでした。夜は大体8時から9時ころまで病院にいました。土曜日曜はもちろん病院です。夜中からの緊急手術もあります。自宅にいる時間は余りありませんでしたが、仕事がとても楽しく充実感がありました。病院の中では何時の間にか内科の50代の副院長がいなくなり、代わりによその病院を退職した高齢の医師が副院長となっていました。3月末に前院長が解任となり、次の新院長が4月に解任され、院長不在のまま7月になっていました。眼科、耳鼻科、小児科は医師不在、外科、内科、整形外科は医師不足で弱体化しており、経営的には病院全体は破産状態であったろうと思います。次期院長は各科の医師の補充、増員、特に外科との間に深い溝の出来た整形外科の医師補充に対しては、特別の経営的手腕と時の経過が必要だったと思います。

統括者のいない病院全体がどのような状態であったかわかりませんでしたが、私たち外科としては3人体制ではやっていけないので、大学の第一外科に対して早急に応援の医師派遣を要請しました。とりあえず第一外科の助教授が一週間だけ現状視察のため来てくれました。助教授を含め4人の外科医がいても忙しい毎日でした。その週は夕方からの緊急手術のため深夜まで帰宅できない日もありました。大学側では院長が決定するまで、第一外科の上級医師から順番に1週間ずつ応援に出すことを決定しました。観客の多い夏場はかなりの頻度で交通事故に対する緊急手術もあり、応援の医師たちも夜遅くまで宿にもどれない日がありました。応援の医師たちは、週の終わりには大変だった大変だったとぼやきながら戻っていきました。こういう大学からの医師たちの反応も、院長への応募に対して抑制的作用があったと思います。私にとってはこの状況は千歳一隅のチャンスでした。まず、殆んどすべての大きな手術を、熟達した先輩医師の指導の元にできたこと、そして名古屋大学の第一外科のほとんどの上級医師と面識ができたこと、さらに大学とのしっかりしたパ



イブができたことです。

その年の12月になっても院長は決定しませんでした。ついに強権発動で第一外科に所属する飛騨出身の医師を有無を言わずに院長に任命することが決定したと大学から通知があり、翌年1月赴任が実現して募が下りました。

本日で私が高山西ロータリー会長に任命されて半年が過ぎました。ほぼ順調にすべての業務が行われてきたと思います。これは西ロータリーの皆様のご支援と事務方のお蔭であります。ありがとうございます。また今年度より始まる交換学生の実現に向けては鴻野さんの献身的な努力、並びに飛騨高山高等学校および荒川先生のご協力のお蔭です。ありがとうございます。

<幹事報告>

◎R I 日本事務局より

- ・1月のロータリーレポートについて
- 1ドル 82円(現行80円)

◎叙勲褒章受章祝賀会発起人 高山市長 國島 芳明より

- ・平成24年度叙勲褒章受章祝賀会のご案内

日時 平成 25 年 1 月 31 日(木) 16:00~
場所 高山グリーンホテル 天山の間
会費 10,000円

◎高山市社会福祉協議会より

- ・平成24年度高山市社会福祉協議会第3回評議員会の結果報告について

◎光記念館より

- ・冬季休館のお知らせ 期間 12月12日(水)~2月26日(火)

◎中日新聞社文化事業部より

- ・「第44回日展東海展」のご案内

日時 1月25日(金)~2月11日(月・祝)10:00~18:00
場所 愛知県美術館ギャラリー 愛知芸術文化センター 8F
入場料 一般1,000円(800円)、高大生700円(500円)、
小中生400円(200円)



奉仕を通じて平和を

例会報告

<出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	43名	8名	51名	51名	100.00%
本日	42名	—	42名	51名	82.36%

<本日のプログラム> 国際奉仕委員会



委員長
鴻野 幸泰

本日は国際青少年交換学生の受け入れについて、飛騨高山高校の荒川先生、カウンセラーを務めていただく伊藤松寿さん、そして過去の受入の際の状況

について挟土さんと平さんにお話しいただきます。

まず私から「国際青少年交換手引書」よりホストクラブの任務について説明いたします。

- 1) 予算措置(受入学生一人につき年間約70万円~80万円)
- 2) 受入学生の通学高校及び複数(4~6)のホスト家庭の選定。
- 3) 来日学生が決定次第、スポンサークラブ及び受入学生と文通を始める。
- 4) 地元での出迎え。
- 5) 外国人登録の実施。パスポート、保険証券はカウンセラーにて保管すること。
- 6) 受入学生の日常の行動、健康、生活に留意し有意義な生活を送れるようにする。
- 7) 毎月小遣い(¥10,000)を交付、出来れば月に1回は例会に招待して会長より直接本人に手渡す事が望ましい。
- 8) クラブ会員が何らかの形でホストファミリーに協力しているかどうか確認する。
- 9) クラブ内で受入交換学生担当のカウンセラーを受入決定と同時に決め、受入交換学生の良きアドバイザーとする。カウンセラーは一年間を通じて出来るだけ多くのロータリアンの家族に招待され、また各行事に参加させるようにする。カウンセラーは地区の委員とも常に連絡をとること。
- 10) 受入交換学生について重大な問題が生じた時は遅れなく地区委員に連絡し、決してクラブ内にて秘密裡に処理しないこと。
- 11) ホスト家庭はカウンセラー・担当委員長を通じ地区委員会へホスト報告を毎月10日迄に提出のこと。

以上の通り、交換学生の受け入れはあくまでもクラブの任務であり、ホストファミリーや学校のご協力を仰いだ上での実現です。皆さんどうかよろしく願いいたします。



カウンセラー 伊藤 松寿

ロータリー一年度にかかわらず、ベスの滞在期間中、クラブ・学校・ホストファミリー間の様々な調整を委員長と共にを行います。まず年明け1月19日、鴻野さんとセントレアへ向かいます。皆様のご協力をお願い致します。



飛騨高山高等学校
荒川 一弘 先生

この度は飛騨高山高等学校へ留学生を派遣下さり有難うございます。教職員・学生共々大変楽しみにしております。本日は、ホストファミリーならびに会員皆様にご留意いただきたい学校行事について説明いたします。

初登校は1月28日からの予定となりますが、3月については入試があるため、約1ヶ月程の通学で後期は終了となります。4月8日(月)が2年生の始業式ですが、6月11日(火)~14日(金)は前期中間テストで午前中のみ、修学旅行は6月25日(火)の4:00発 28日(金)0:00着予定となっております。7月23日(火)の終業の会を経まして8月25日(日)まで夏休みです。前期期末テストが9月24日(火)から27日(金)まで、後期中間テストが11月26日(火)から28日(木)までで、どちらも学校は午前中のみとなります。冬休みは12月25日(水)から1月8日(水)までですが、年明けの通学については離日の日程を考慮して、となります。

彼女と何度かメールのやりとりをしていますが、ひらがなカタカナの読み書きは出来ても漢字は無理の様です。ベスはオーストラリアで、日本で言う所の中学3年生を終了して来日しますが、こちらでは高校1年の途中からの編入となります。高校課程を修了した段階で、日本もしくは韓国で英語を教える経験を積んで、現在考えている翻訳家になる、という将来について考えたいという意向の様です。



挟土 貞吉

祈茂会長さんはお医者さんだけあって患者の気持ちを察し、又私に脳トレの場を与えてくださいました。有難うございます。この病気になって3年が経ちました。おかげ様でここまで良くしていただきましたが、まだこの状態であり正直はんちくたい毎日です。あとは右脳の回復を待ち、手足への指令を出す回線が少しでも早く再生できるよう祈り、リハビリを頑張るのみです。それでは与えられた時間、交換学生の派遣、受入れについて話をさせていただきます。

我が家では、娘恵子が岐阜聖マリア女学院在学中2年生で

例会報告

アメリカミネソタ州に行かせていただきました。その後、本人はアメリカの大学に入り設計事務所に就職、アメリカ人の寿司職人と結婚し、今はデンバーのダウンタウンで寿し店(寿し屋)を開業、20人余りの人を使いそれなりの生活をして暮らしております。私はそのお陰で去年3ヶ月もアメリカの病院でこの身体のリハビリ治療をして参りました。これも交換学生として行かせたお蔭であり感謝しています。

派遣先ミネソタでの事を少し話しますが、第一ホストがロータリー会員でポリ公さんの家だったそうで、夜回りにパトカーに乗せてもらい、サイレンを鳴らして犯人を検挙し、後ろに乗せ警察に行ったことかあり、その時は怖かったと言っていました。もう一つは、この第一ホストに同年の彼女が居て親しくなり、第三ホストへ遊びに来るようになり、その家に素敵な彼がいてこの二人が仲良くなり結婚し、その結婚式に招待を受け参列し「日本から来た縁結びの交換学生」と紹介がありスピーチをしたそうです。その後、第一ホストの人がロータリーの会長になり、アメリカのロータリー会報にデンバーの生活、アメリカに往む日本人交換学生としての紹介記事が大きく出たそうです。とにかく毎日が勉強になることばかりで、又楽しいことが沢山あり視野を広めることが出来たと言っています。クラブ例会、地区会合、アメリカの全国大会と出るわけですが、楽しいわけその都度バッチをもらってブレザーに付け帰国して高山駅に迎えに出た時、その数の多いのに吃驚しました。

脇本、荒川、田近さんのお子さん達もさっと同じ体験をしてきております。我がクラブ会員で年頃のお子さんがある人は進んで派遣、送り出してやってください。心の広い子になって帰ってきます。反面、聡をかいり怖かったことは自分の国日本のこと、歴史、文化をあまりにも知らなすぎたことだと言っております。



私のこの話は 1988年～89年の久保田会長さんの時の事です。この年度に娘がア

メリカへ行き、アメリカからロバートという男の子が来ていたわけです。我が家でも



受け入れホームステイをしたロバート君について少し話しますと、彼は男もよし、頭も人柄も良い子でした。今ニューヨーク一番の会計事務所経営コンサルタント会社社長だそうですが、我が娘たちと今も交流があり行き来しております。今年の夏、姉娘が高山に来た時、電話をしipadでお互いの家の中、家族を写し顔を見ながら長話をしました。回覧しています写真を見てください。来たときは若く子供であったのに叔父さんになっているのに笑ってしまいました。それを言う私はお爺さんになっているわけですが…。その時の話ですが、

あの11年前世界が恐怖を感じたニューヨークでのビル爆破飛行機テロ事件がありましたが、彼が勤めるオフィスがあつたビルにあり毎日出勤していたのが、その日だけ病気で休みを取って家にいて命拾いをしたそうです。又つい先日、デンバーに仕事に来て娘たち家族と食事をしたそうで、その写真も回覧していますので見てください。話はさかのぼりますがロバートが高山から帰り大学在学中、ホワイトハウスでバイトをしておりました。ちょうどその時姉娘がアメリカで結婚式をあげ、我が家族がデンバーにいました。その際ロバートからの誘いの電話で兄(雅浩)がニューヨークに行きあの議事堂ホワイトハウスの中を見学してきました。

派遣、受入をすることでこのように思いもしないお付き合いや、チャンスが訪れます。まだまだ受入学生4人の話もしたいのですが時間ですので止めます。

西クラブ会員の皆さん、お子さんたちは大きく羽ばたき視野を広め国際親善を深めて来ますので交換学生の受入、派遣を進んで行ってください。

受入で大事なことは我が子として扱い、一日も早く家族の一員になるよう接する事です。お互いに挨拶をしっかりすること、誉めてやることです。生活習慣、言葉、食事、何もかも違う国から来る子供達です。来た本人は不安でどきどきしているわけです。相手の気持ちになって思いやりの心で面倒を見るのが大事です。我が日本が良いと選んでくる子供、学生達ですから、そのまま自然体で受け入れ飛騨高山人の心を伝え教えればよいと思います。礼に始まって礼に終わる。

「武士道精神」です。「やって見せ、言って聞かせ、やらせて見て、誉めて」やることです。終わります。

平 義孝



我が西RCの交換留学生事業は、1972年から1999年(昭和47年から平成11年)までに、西RCからアメリカへ8名、オーストラリア3名の(11名)を交換学生として派遣しています。我がクラブへの交換学生としての

受入はアメリカから8名、オーストラリアから4名の(12名)を受け入れています。

又、2630地区のRCは80RCがあります。今年度から来年度の受入交換学生は、今年の秋から下呂RCへ1名、来年の1月から西RC1名、四日市RC1名、各務原中央RC1名の3名が決定しています。又、西RCのホストファミリー先も、6名の方の受け入れが決まっています。カウンセラーは伊藤松寿さんをお願いしています。

ここで我が家でのホストファミリー経験をお話しようと準備してまいりましたが、時間が僅かとなりました。ジュニンについては先週、伊藤松寿さんがお話されましたので割愛しまして、デビットの件について、高山に来た際と1ヶ月经過した際のスピーチが残っておりますので、これをご紹介して終わりにしたいと思います。たった一月程ですがスピーチも格段に上達しております。子供たちは高山での経験をしっか

例会報告

り成長の糧にして帰国します。ホストファミリーの皆様、大変お世話を掛けますが、宜しくお願い致します。

『ハロー、エブリバディー 高山西RCの皆様、こんにちは。私はデビッド・シンプソンです。今度西RCの皆様のお陰で高山に来ることができました。アイアムベリハッピー。ありがとうございます。オーストラリアのビクトリア州ピーコンスフィールドから来ました。スポンサークラブは、エンデバーヒルズRCです。家族はお父さん、お母さんと兄弟が6人います。父は製菓会社の役員で、ピーコンスフィールドRCのメンバーです。バスケットボールをしたり、ギターを弾いたりサックスを吹くのが好きです。オーストラリアでは日本の事を勉強してきました。高山大好きです。寒いのも好きです。もっと勉強してもっと好きになりたいと思います。高山弁も少し覚えました。「あれ、こわいさ」「はんちくたい」それから「ち-ゃんとやるで、たのむさな」。1年間、お世話になります。サンキューベリマッチ。』

『僕が日本へ来てから1ヶ月が経ちました。とても楽しく良い日々を過ごしています。ロータリークラブの皆さんの心温まる歓迎に感謝しています。高山は良い所で、楽しんで生活しています。

オーストラリアは暑い毎日だったので、全く違う寒さの高山へ来て、雪にも驚きました。スキーには、垂井さんや久保田さんのお世話になり、ホストファミリーや学校から何回も行きました。月の初めには高山の有名な行事に、雄平と国分寺へ行きました。家の中へ豆を撒いていきました。

僕は斐太高校でたくさん友達ができました。皆親切にしてくれ、カラオケや映画に一緒に行きました。オーストラリアの学校では自由な服装ですが、今は制服を着て行きます。学校のクラブでバンドをやっていて、3月のコンサートには僕も出演する予定です。クラブの練習時間が長く、オーストラリアでは少しだけなのでとても疲れます。日本の事をできるだけ学びたいので、日本語の勉強をしています。

今、二軒目のホストの脇本さんにいます。とても快適にしています。脇本のお父さんは親切で面白い人です。オーストラリアの僕の家では、お父さん、お母さん、兄弟、僕と順番に料理をしますが、脇本ではお母さんが何でも一人でやります。とてもおいしいです。日本食が大好きで、何でも食べられます。特に焼き肉、焼き芋が好きです。納豆、梅干しは嫌いです。毎朝、雄平と一緒に弁当を持って学校へ行きます。

彼がこの文章を日本語に訳してくれました。

2月10日には僕のためウエルカムパーティーをありがとうございました。先生やロータリーの委員の皆さん、僕のホストファミリーの皆さんに会え、おいしい料理をありがとうございました。今日はサクソフォンを皆さんに聞いていただきます。』

<ニコニコボックス>

●折茂 謙一さん

①12月19日交換学生受入家族の歓迎会にお集まりいただき有難うございます。

②本日は荒川先生よろしくお願ひいたします。

●米澤 久二さん

飛騨高山高校 荒川一弘先生 ようこそいらっしゃいました。お話よろしくお願ひします。また、これからも大変お世話になります。よろしくお願ひします。

●田中 武さん、鴻野 幸泰さん

先日の国際青少年交換学生研修会に参加して下さいました会員の方々、大変ありがとうございました。荒川先生、ご来訪誠にありがとうございます。本日はよろしくお願ひします。

●東 庄豪さん、大村 貴之さん、小瀬 真之介さん

昨日の会員増強委員会ありがとうございました。船長料理、大変おいしくいただきました。

●塚本 直人さん

昨日は会員増強の会で堀川さんに大変お世話になりました。ありがとうございます。本日は早退させていただきますがよろしくお願ひします。

●狹土 貞吉さん

今年最後の例会に、年末宝くじが大当たりしました。スピーチが当たっております。鴻野委員長さん、イエローカードの準備をしておいて下さい。

●井辺 一章さん

寒い日が続きます。今年もこれが最後の例会ですね。1年前の幹事として米澤幹事さん、大変スムーズに会を運営され頭が下がります。頑張ってください。

●阪下 六代さん

本年も大変お世話になり、ありがとうございました。どうぞ佳い年をお迎え下さい。

●小田 博司さん

平成24年、この1年も無事に終えることが出来そうです。後10日何も起こらない事を祈念しクラブ会員の皆様、有難うございました。よいお歳を迎えて下さい。

一期一会 「美しい日本語について思うこと

- - 『～じゃないですか』はなぜ腹が立つ? - 河渡 正暁 ●
- 「僕って日本酒好きじゃないですか」「私も甘党じゃないですか」。「じゃないですか」と言われてもすんなり受け入れることが出来ない。この嫌な感じは何か。何だかわからないけれど不愉快になる。それはなぜか?
- 第一に「何とかじゃないですか」という疑問で言うこと。反応・返事を相手に強制しているということ。第二に、あなたも知っているでしょう、という、決めつける、自分勝手な言い方であることが苦痛である。この二点であると思う。
- 早く親しくなりたい、距離があると緊張感がある。「自分のことを早く知ってほしい」という願望のあまり、素朴な平易な会話の中で、自然に「じゃないですか」という言葉が出てしまう。
- 社会人の会話では「礼儀知らず」という感情が起きてしまう。
- 日本語の言葉に潜む『強制』『支配』にご用心を。「コーヒーが飲みたいですか」これも同じ。欲求や希望とか、相手の気持ちに踏み込むのは失礼である。